

Title	大学院学生(I 研究所の概要)
Author(s)	
Citation	霊長類研究所年報 (1993), 23: 43-46
Issue Date	1993-09-01
URL	http://hdl.handle.net/2433/164496
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

大 学 院 学 生 (平成4年度)

霊長類学専攻

氏 名	学 年	指導教官	研究テーマ
小林秀司	D 5	野上裕生	新熱帯区における広鼻猿類の種分化に関する研究
Soumah Aly Gaspard	D 4	杉山幸丸	ニホンザルの採食行動と順位
鈴木良太	D 4	庄武孝義	(休学中)
小林 隆	D 3	加納隆至	ウマの匂いづけ行動
松村秀一	D 3	加納隆至	スラウェシマカクの社会行動
橋本千絵	D 3	加納隆至	ボノボ集団の血縁関係
河本敏夫	D 3	久保田競	(休学中)
植木 浩一郎	D 2	久保田競	随意運動の発現機構の解明
小川秀司	D 2	加納隆至	チベットマカクの社会行動
揚妻直樹	D 2	加納隆至	ヤクシマザルの採食行動
花澤明俊	D 1	久保田競	注意の神経機構
田中 香	D 1	加納隆至	ニホンザルの採食行動の発達
宮地剛士	M 3	久保田競	(休学中)
近藤 あや子	M 3	杉山幸丸	(休学中)
松元健二	M 2	久保田競	高次視覚処理の研究
嶋田 誠	M 2	庄武孝義	類人猿の集団遺伝
田中正之	M 2	小嶋祥三	チンパンジーの分類行動
金沢 創	M 2	小嶋祥三	ニホンザルの表情
長谷川 良 平	M 1	久保田競	作業記憶課題遂行中のサルの前頭連合野におけるニューロン活動の解析
橋彌和秀	M 1	小嶋祥三	霊長類における音声・聴覚の研究
山越 言	M 1	杉山幸丸	チンパンジーの行動学的研究
白石陽子	M 1	竹中 修	霊長類脳における遺伝子発現の研究

研究概要

小林秀司

ティティ属の系統分類学的研究

頭骨の全体的形状、歯の形態、地理分布、核型、生態的知見などの形質から、ティティ属の系統関係と、分化・分散のパターンを解析した。

Soumah Aly Gaspard

ニホンザルの繁殖の栄養による制限

高順位のメスと低順位のメスの繁殖成功度の違いを、エネルギー、タンパク質、アミノ酸の摂取量の違いから説明した。

小林 隆

都井岬の半野生馬の社会学的研究

排せつ物によるにおいづけ行動と、においに対する反応に関して、観察および野外実験を行うことによって、においづけの機能を調べる。

松村秀一

ムーアマカクの社会学的研究

インドネシア・スラウェシ島において、ムーアマカクの社会構造を明らかにする。

植木浩一郎

単純視覚性反応時間課題におけるGABA抑制の役割

大脳皮質の情報処理機構と伝達物質の役割を解明するため、神経細胞の活動の記録とモデルの計算機シミュレーションを行った。

小川秀司

チベットモンキーの社会学的研究

中国黄山において、オス間およびメス間の社会関係を調査し、他の種との比較からマカク属の社会の進化を考察する。

花澤明俊

運動視の多重性

輝度の空間周波数フィルター出力から直接視覚的運動を検出する機構と中間的な情報表現を経て運動を検出する機構の脳内での存在様式を調べる。

田中 香

野生霊長類の採食生態

ニホンザル及びテナガザルにおいて、採食行動と群れの形態との関連を調査し、霊長類の群れの機能について考察する。

嶋田 誠

多座位電気泳動法における

ヒト上科系統樹の評価

多座位電気泳動法により種系統樹を再構築する際の仮定事項を検討することにより、変異の維持機構と進化史との関連を調べる。

田中正之

チンパンジーによる分類行動

チンパンジーに「分類」行動を学習させ、新奇状況での自発的分類傾向から、彼らが世界をどのようなカテゴリに分けているかを調べる。

金沢 創

ニホンザルの表情認知

見本合わせ課題や視覚的探索課題をサルに行わせ、顔のどの部分の動きが「表情」を作り出すかを調べる。そしてその進化について考察する。

松元健二

視覚認知情報の行動への変換の脳内機構

顔や食べ物などの写真を弁別、記憶する課題遂行時の前頭眼窩回のニューロン活動を解析し、視覚認知に基づいた行動における役割を考察する。

橋彌和秀

霊長類における視聴覚の統合

チンパンジーとニホンザルについて、視聴覚間のクロスモーダルな情報処理の特性を実験的に検討し、ヒトとの比較をおこなう。

白石陽子

サル大脳皮質前頭連合野における

特異的遺伝子発現の探索

サブトラクション法により作成した前頭連合野特異的遺伝子のcDNAライブラリーを用いて、霊長類大脳皮質の進化を検討する。

長谷川良平

作業記憶課題遂行中のサルの

前頭連合野におけるニューロン活動の解析

作業記憶の脳内機構を調べるため、眼球運動を用いた遅延見本合わせ課題遂行中のサルの前頭連合野から単一ニューロン活動を記録する。

山越 言

野生チンパンジーの社会学的研究

ギニア共和国ボソウに生息するチンパンジー群を対象に、群内の個体間関係、近隣群との群間関係を研究する。

総説

—和文—

- 1) 植木浩一郎(1992): 認知科学入門(1-4), 霊長類研究所内の講義で用いた資料

論文

—英文—

- 1) Soumah, A. G. and Yokota, N. (1992): Rank-related reproductive success in female Japanese macaques. In Topics in Primatology vol.2 (eds. by Itoigawa, N. et al.) 11-22
- 2) Matsumura, S. (1993): Intergroup affiliative interaction and intergroup transfer of young male Japanese macaques (*Macaca fuscata*). *Primates*, 34: 1-10.
- 3) Matsumura, S. (1993): Female reproductive cycle and the sexual behaviour of moor macaques (*Macaca maurus*) in their natural habitat, South Sulawesi, Indonesia. *Primates*, 34: 99-103.
- 4) Agetsuma, N. (1992): Distribution pattern and age structure of *Abies firma* saplings in a mature mixed forest of *A. firma* and *Fagus japonica*. *Ecol. Res.*, 7: 387-389.

—和文—

- 1) 田中正之(1991): チンパンジー(*Pan troglodytes*)による対象分類とその般化. 動物心理学研究 41 (2), 100-115.

報告・その他

—和文—

- 1) Goodall, J. (1989): Glossary of chimpanzee behaviors. Published by the Jane Goodall Institute. (田中正之・松沢

哲郎 訳(1992): チンパンジーの行動目録.
霊長類研究 8(2):123-152)

学会発表

—英文—

- 1) Soumah, A. G.(1992): Nutritional Constraints on Reproduction in Japanese Macaques. 14th Congress of the International Primatological Society.
- 2) Watanabe, K. and Matsumura, S. (1993): Sexual behavior and female reproductive cycle in a group of moor macaques. XIVth CONGRESS OF THE IPS, 326.
- 3) Watanabe, K., Matsumura, S. and Bynum, N. (1993): Field observation of Sulawesi macaques. XIVth CONGRESS OF THE IPS, 380.
- 4) Hill, D. & Agetsuma, N. (1992): Annual variation in the use of a major plantfood by wild Japanese macaques in Yakushima. Primate Society of Great Britain meeting. Primate Eye, 47: 8.

—和文—

- 1) 小林秀司(1992): ティティ属の分化と地理的分散. 霊長類研究, 8(2):184.
- 2) 小林 隆 (1992): 都井岬の半野生馬 (*Equus caballus*) のにおいづけ行動. 第39回日本生態学会大会. 講演要旨集, 163.
- 3) 小林 隆 (1992): 都井岬の半野生馬の臭いづけ行動の機能. 日本動物行動学会第11回大会. 発表要旨集, 29.
- 4) 橋本千絵 (1992): 野生ボノボ (*Pan paniscus*) のコドモの性的行動について. 第39回日本生態学会大会. 講演要旨集, 165.
- 5) 橋本千絵 (1992): 野生ボノボ (*Pan paniscus*) における性器接触行動の発達. 第8回日本霊長類学会大会. 霊長類研究, 8(2): 196.
- 6) 揚妻直樹 (1992): ヤクシマザルの一日常りの移動距離と採食品目の関係. 第39回日本生態学会大会. 講演要旨集第, 182.
- 7) 揚妻直樹 (1992): ヤクシマザルの遊動距離と採食品目の関係. 第8回日本霊長類学会大会. 霊長類研究, 8(2): 222.
- 8) 揚妻直樹 (1992) 野生ヤクシマザル

(*Macaca fuscata yakui*) の食物選択行動.
日本動物行動学会第11回大会. 発表要旨集, 10.

- 9) 田中 香 (1992): 野生ニホンザルのコドモの伴食個体と採食行動. 第39回日本生態学会大会. 講演要旨集, 164.
- 10) 田中 香 (1992): ニホンザルの採食場所選択とその発達. 日本動物行動学会第11回大会. 発表要旨集, 35.
- 11) 田中正之 (1992): チンパンジー (*Pan troglodytes*) による自発的分類. 日本動物心理学会第52回大会. 発表要旨集, 28.
- 12) 田中正之 (1993): チンパンジーによる非知覚の手がかりに基づく分類. 日本発達心理学会第4回大会. 発表要旨集, 162.
- 13) 木下昌也・田中正之・太田裕彦・俣野彰三 (1992): チンパンジーのT型迷路課題の遂行と手の使用. 第8回日本霊長類学会大会. 霊長類研究 8(2), 202.
- 14) 木下昌也・田中正之・太田裕彦 (1992): チンパンジーのT型迷路課題の遂行. 日本動物心理学会第52回大会. 発表要旨集, 29.
- 15) 金沢 創・蛭川 立 (1992): 大学生が泣くことの記載的研究. 日本性格心理学会第1回大会発表論文集, 32.
- 16) 山口真美・金沢 創 (1993): カップルのリズムの同調と歩行速度の関連. 日本発達心理学会第4回大会発表論文集, 144.
- 17) 橋瀬和秀 (1993): 飼育下チンパンジーにおける乳児期の行動目録. 日本発達心理学会第4回大会. 発表論文集, 87.
- 18) 橋瀬和秀 (1992): メンタルローテーションのRTプロフィールに見られる視覚と身体感覚との相互作用. 日本視覚学会1992年夏期研究会. 7月27-29日.
- 19) 嶋田 誠・庄武孝義・三輪宣勝・野澤 謙 (1992): ヒト上科におけるDBP多型. 第8回日本霊長類学会大会. 霊長類研究 8(2), 215.
- 20) 小川秀司 (1992): チベットモンキーのメス間の順位変動と連合形成. 第8回日本霊長類学会大会. 霊長類研究 8(2), 205.
- 21) 小川秀司 (1992): その後のチベットモンキーのメスたち. モンキー No. 245・246.
- 22) 白石陽子 (1992): RSV感染SRV1細胞が産生する神経栄養因子について. 第65回日本生

化学会大会. 発表抄録集, 935.

- 23) 長谷川良平(1992): コロセウム迷路における海馬損傷ラットの空間関係学習. 関西心理学学会第104回大会. 発表論文集, 30.
- 24) 長谷川良平(1992): 顔画像の定量化に基づく表情表出シミュレーション. 計測自動制御学会ヒューマン・インターフェース部会第8回シンポジウム. 論文集, 233.
- 25) 山越 言・小田 亮 (1992): ニホンザルメスの estrous call の音響的特徴について. 第8回日本霊長類学会大会. 霊長類研究 8(2), 219.
- 26) 小田 亮・山越 言 (1992): ニホンザルメスの estrous call の配偶者選択における役割. 第8回日本霊長類学会大会. 霊長類研究 8(2), 207.

外国人研究員

氏 名	受入教官	研究 課 題	招聘期間
Alberto Cadena	瀬戸口 烈司	南米哺乳類に関する系統学的研究	3. 7. 1 ～ 4. 6.30
Iver H. Iversen	松沢哲郎	チンパンジーにおける刺激等価性の研究	4. 6.24 ～ 5. 4.23

外国人共同研究者

氏 名	受入教官	研究 課 題	招聘期間
Ellen Ingmanson	加納隆至	ボノボの道具使用・知能に関する観察資料の整理分析	3. 9.21 ～ 4. 8.20

研 修 員

氏 名	指導教官	研究 課 題	研修期間
芝原総子	大澤秀行	授乳が性行動に及ぼす影響	4. 4. 1 ～ 5. 3.31
竹中晃子	竹中 修	カニクイザルのα-グロビン遺伝子領域に見出された未知プロセスト遺伝子について	4. 4. 1 ～ 5. 3.31
三谷雅純	杉山幸丸	コンゴ国熱帯雨	4. 4. 1

林における同所性霊長類の研究	～
小型哺乳類(特に樹上性リス)の社会学的研究	5. 3.31 4. 8. 1 ～ 5. 7.31

瀬戸口 加納隆至
美恵子

Suchinda Malaivijitnon	竹中 修	カニクイザルのグロビン遺伝子構造解析	4.12. 1 ～ 5. 2.28
------------------------	------	--------------------	-------------------------

日本学術振興会特別研究員

氏 名	指導教官	研究 課 題	研修期間
伏見貴夫	小嶋祥三	霊長類のコミュニケーションに関する実験的研究	3. 4. 1 ～ 5. 3.31
日上耕司	松沢哲郎	霊長類における利他的行動の実験的分析	4. 4. 1 ～ 6. 3.31
室山泰之	杉山幸丸	霊長類の相互交渉に関する行動学的研究	4. 4. 1 ～ 5. 3.31
高井正成	野上裕生	南米コロンビアのラベンタ地域から産出する霊長類化石の解析	4. 4. 1 ～ 5. 3.31

受託研究員

氏 名	指導教官	研究 課 題	研修期間
安藤一郎	久保田競	大脳生理学について	4. 4. 1 ～ 5. 3.31

研 究 生

氏 名	指導教官	研究 課 題	研修期間
山根 到	久保田競	目標到達運動における運動前野の機能	4. 4. 1 ～ 5. 3.31
栗田博之	杉山幸丸	霊長類の行動と生態の研究	4. 4. 1 ～ 5. 3.31
Gurja Belay	庄武孝義	霊長類の集団遺伝学的研究	4.10. 1 ～ 5. 3.31